

キク(輪ギク)
Dendranthema grandiflora Kitamura
 (キク科)

挿し芽で繁殖される宿根草で、日本では生産が最も多い切り花品目である。仕事花(葬儀用)、仏花、生け花の花材としての利用が中心である。水あげ、日持ちともに優れるが、水に生けると茎が腐ったり、下葉が枯れ上がったりする。主力品種には、省力化のために半芽なし性品種が導入され、従前の‘精雲’、‘秀芳の力’から夏秋ギクの‘岩の白扇’、秋ギクの‘精興の誠’、‘神馬’などに置きかわった。これらを組み合わせる周年生産されている。花色は白主体で、次いで黄色が多い。清潔な水で水あげを行い、茎にバクテリアを入れないことが重要である。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
開花	A:舌状花の花弁が立ち上がる B:外側の花弁が展開する C:内側の花弁が展開して、露芯する D:落弁する	
舌状花の褐変	A:発生なし C:花弁の一部に褐変(しみ)が発生する D:褐変が広がり、全体的に花色がくすむ	
舌状花の萎れ	触ってみて A:張りがある B:やや軟となる C:軟らかくなる および視覚的に D:萎れる(垂れる)	湿度が低いと花弁、葉ともに萎れが生じやすい。萎れたら茎を切り戻す。
葉の萎れ	触ってみて A:張りがある B:やや軟となる 視覚的に C:萎れるが、切り戻すと回復する D:萎れて垂れ下がり、切り戻しても回復しない	
茎葉の黄変・褐変	A:黄変・褐変の発生なし(緑色) B:下位葉に黄変が発生する C:中位より上の茎葉に黄変・褐変の発生が始まる D:茎葉の1/2以上が黄変し、下葉が枯れ上がる あるいは E:下葉が激しく枯れ上がる	黄変の発生には品種間差が大きい。
その他	灰色カビ病、虫害、茎基部の腐りなど	タニの発生に注意する。後処理剤を用いた場合には茎の腐りは発生しない。

2) 留意点

下葉は十分に取り除いて、いけ水につからないようにする。
 乾式輸送後の強く萎れた切り花は、あらかじめ水で水あげを行った後、後処理剤の溶液に移して品質評価を開始する。
 多湿下で灰色カビ病が発生しやすい。

3) 開花(上:岩の白扇, 下:神馬)



4) チェック事項



舌状花の褐変

